

- 市町村や猟友会ではなく、地域住民が主体となって被害対策を実施。
- 地域のリーダーを中心に、被害の低減のみならず、地域の活性化も視野に入れ、地域ぐるみで活動。
- 柵の設置や追払い活動などの基本的な対策のほか、サルの出没情報の共有や柵の改良などを地道に実施。

甲賀市の状況

- 農業生産活動の低下や耕作放棄地の増加等により、野生鳥獣（特にシカ、イノシシ、ニホンザル）の個体数が急増
農作物被害額：3,500万円（H27）
1,900万円（H28）

（捕獲頭数）

	28年度	29年度
ニホンジカ	1,980	1,824
ニホンザル	51	27
イノシシ	924	713
アライグマ	286	402
ハクビシン	37	70
カラス	15	10

- 「自治振興会によるまちづくり」を推進
 - ・ 地域の身近な課題解決に向け、地域が一体となって各種の取組を実施
 - ・ 行政は振興会の活動や運営のための交付金を交付するほか、必要に応じ、職員が側面から活動を支援

住民による被害防止対策

【山内自治振興会：9集落による自治組織】

- ・ H23年4月設立。設立と同時に鳥獣害対策事業班を設置し、捕獲活動を実施。
- ・ 捕獲活動のほか、当番制による柵の管理、緩衝帯管理のための草刈り、山林の間伐、放任果樹の除去、ジビエ料理の研究等を集落ぐるみで実施。



【大澤集落】

- ・ 18戸80人の小さな集落であるが、県の獣害対策アドバイザーにも認定されている農家を中心に被害対策を実施。
- ・ フェンス柵の改良やサルの出没情報の集落内有線での事前伝達など、きめ細やかに対策を実施。



被害額の推移等

【山内自治振興会】

※ 平成26年度鳥獣被害対策優良活動表彰
（生産局長賞）受賞

（単位：頭）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
捕獲頭数	65	77	74	53	74

（捕獲器別実績（29年度））

捕獲器	シカ	イノシシ	計
箱わな	26	14	40
メッキタイプ捕獲器	5	6	11
ドロップネット	19	0	19
囲いわな	0	0	0
足くりわな	1	0	1
鹿よけ網	3	0	3
計	54	20	74

ドロップネットが効果を発揮し、近年では被害額が激減。